

## 国立工芸館 収集の概要（令和5年度）

国立工芸館では、近現代の日本の工芸作品及びデザイン作品の体系的・通史的概観を可能とし、かつ世界との関係を示すため必要な時代や国・地域の作品の充実を図っている。また、性別・年齢の偏りを是正するよう配慮しつつ時代精神を映し出す優品を積極的に収集するよう努めている。とりわけ日本工芸の近代化を示す作品の補充と、個々の表現を模索し多様な展開を見せる、戦後から現代に至る重要な作品の収集を中心としている。

令和5年度についても以上の方針を踏まえ、近代から現代の若手にいたるまで幅広い時代の作品を収集した。とりわけ今年度は性別・年齢の偏りを是正するよう配慮し、小川待子や釜我敏子といったベテランだけでなく澤谷由子といった若手まで、女性作家の作品を収集した。また若手は女性に限らず対象とし、それぞれ代表的なシリーズである館鼻則孝《Heel-less Shoes》、桑田卓郎《白金彩梅華皮志野茶堦》や池田晃将の箱もの最大級となる《Error 403》などを購入収集し、コレクションの充実を図った。また山田礼子の金工による15点にのぼるジュエリー作品や前出の釜我敏子作品10点、走泥社などで活躍した京都の代表的な陶芸家林康夫の作品5点を寄贈いただいた。

## 国立工芸館 美術作品購入一覧（令和5年度）



=特別予算購入

1	<p>種別：陶磁</p> <p>作者名：板谷波山（1872-1963）</p> <p>作品名：彩磁紫陽花模様花瓶</p> <p>制作年：1915年</p> <p>材質・形状：磁器、彩磁</p> <p>寸法：h29.8 D35.9</p> <p>解説：日本近代陶芸の先駆者で、陶芸分野で初の文化勲章受章者である波山による、大正期の貴重な作品。全面を紫陽花で覆う模様は波山の作例でも珍しい。この時期の出品歴が明らかな作例は少なく、日本近代陶芸史研究上でも非常に重要な作品。</p> <p>取得額：137,500,000円</p> <p>展示予定：展示予定（花と暮らす展；2025年3月14日～6月11日）</p>
2	<p>種別：金工</p> <p>作者名：海野勝珉（1844-1915）</p> <p>作品名：花鳥図花瓶</p> <p>制作年：明治・大正時代</p> <p>材質・形状：片切彫、高肉象嵌、平象嵌、金、銀、四分一、赤銅</p> <p>寸法：各 h 35.4 D16.0</p> <p>解説：いわゆる「宮内省型」と呼ばれる一対の銀製花瓶。牡丹や木蓮と小鳥を配した華やかな構図が、勝珉の高度な技巧で表現されている。江戸時代から明治への彫金技法の継承を知るうえでも貴重な作例。</p> <p>取得額（円）：66,000,000円</p> <p>展示予定：計画中</p>
3	<p>種別：陶磁</p> <p>作者名：加守田章二（1933-1983）</p> <p>作品名：壺</p> <p>制作年：1974年</p> <p>材質・形状：陶器</p> <p>寸法：h44.2 w17.0 d14.2</p> <p>解説：祭器のような鋭い輪郭線で構成された造形と、刻文線と称される文様が調和した、1970年代中期の加守田のスタイルをよく示す作例。表面装飾と器形の関係性を追究し、作風が大きく変遷する作家の仕事の全貌を知るうえでも重要な作品。</p> <p>取得額（円）：9,350,000円</p> <p>展示予定：計画中</p>
4	<p>種別：陶磁</p> <p>作者名：樂直入（十五代樂吉左衛門）（1949-）</p> <p>作品名：焼貫花入</p> <p>制作年：1984年</p> <p>材質・形状：樂焼</p> <p>寸法：h19.5 w13.5 d13.4</p> <p>解説：十五代吉左衛門を襲名した直後の作で、その後円熟味を増す作陶探求の原点をうかがわせる一品。篋削り跡の鋭さと絵画的な色彩美が共存する。作家全体の作品数でも茶碗に比べ、花入は極端に少ないため、貴重な作品。</p> <p>取得額（円）：-</p> <p>展示予定：計画中</p>

5	種別：竹工 作者名：池田巖（1940-） 作品名：Untitled 制作年：2016年 材質・形状：竹、漆、蒔絵 寸法：h57.7 w13.3 d11.0/h42.0 w14.7 d10.0 解説：東京藝大で漆芸を専攻し、松田権六から蒔絵の時代研究を学ぶなど、古美術と伝統様式を強く意識した池田は1980年代半ばから竹のフォルムを活かした全く新しい造形に着手する。竹工とも漆芸とも分かれ難い独自の表現を探究した優品。 取得額（円）：- 展示予定：計画中
6	種別：人形 作者名：四谷シモン（1944-） 作品名：機械仕掛の少女 2 制作年：2016年 材質・形状：紙、木、ガラス、毛、金属 寸法：h107.0 w63.0 d14.2 解説：日本における球体関節人形の第一人者として海外からも高く評価される四谷。本作では造形作家・荒木博志との協同作業により制作された。人体と機械という異質なものの融合は、人形、ひいては人間とはなにかという根源的な問いを投げかける。 取得額（円）：- 展示予定：展示予定（おとなとこどもの自由研究 工芸の光と影展；2024年6月18日～8月18日）
7	種別：陶磁 作者名：井上雅之（1957-） 作品名：T-917 制作年：1991年 材質・形状：陶器 寸法：h79.0 w94.0 d61.5 解説：多摩美術大学で油画を専攻し、在学中に陶芸へと転じた井上。本作は轆轤成型を主体に、様々なテクスチャを持つ破片を重ねた造形は絵画的でありながら、陶磁器独特の質感と緊張感のある立体的調和を備えている。京都書院『陶Vol.26』掲載作品。 取得額（円）：- 展示予定：計画中
8	種別：陶磁 作者名：小川待子（1946-） 作品名：Untitled 制作年：1993年 材質・形状：陶土、磁土 寸法：h 40.5 w 43.0 d 36.0 解説：フランスやアフリカに滞在し、各地の作陶を学んだ小川は、帰国後技巧にとらわれない造形美で注目を集める。本作は乾燥時の収縮率の違いにより内側の陶土が剥がれることで二重の器の姿をとることで、器とは何かを見る者に強く意識させる作品。 取得額（円）：- 展示予定：計画中
9	種別：陶磁 作者名：金重陶陽（1896-1967） 作品名：備前長方台鉢 制作年：1951年 材質・形状：陶器 寸法：h13.5 w58.0 d26.0 解説：備前焼の分野で初の人間国宝に認定された金重による、指定前の貴重な作品。タタラ造りの長方形の鉢で、北大路魯山人の影響がみられる。陶芸家のみならず多くの芸術家と交流のあった金重の作品は美術と陶芸の繋がりを知る上でも重要である。 取得額（円）：7,920,000円 展示予定：計画中

10	種別 : 陶磁 作者名 : 桑田卓郎 (1981 - ) 作品名 : 白金彩梅華皮志野茶垵 制作年 : 2020年 材質・形状 : 磁土、釉薬、顔料、白金 寸法 : h13.5 w18.0 d 17.0 解説 : 溶け残った釉薬が鮫肌上に縮れる伝統的な陶芸技法「梅雁皮」を大胆にデフォルメした一品。プラチナを配合し、梅雁皮を強調することで豪著な印象が際立つ。伝統を踏まえつつ新しい表現を模索する桑田の作品は現代アートの文脈でも高く評価される。 取得額 (円) : - 展示予定 : 計画中
11	種別 : 陶磁 作者名 : ピーター・ヴォーコス (1924-2002) 作品名 : PLATTER 制作年 : 1959年 材質・形状 : 陶器 寸法 : h8.4 w45.3 d45.7 解説 : 1953年にはじまる前衛芸術家との交流はヴォーコスの方向性を決定づけた。本作でも抽象表現主義の影響とともに、物質としての強い存在感は陶芸の域にとどまらない。ジャンルレスに横断するヴォーコスの表現探究の軌跡をよく示す作例。 取得額 (円) : 1,320,000円 展示予定 : 計画中
12	種別 : 漆工 作者名 : 池田晃将 (1987 - ) 作品名 : Error403 制作年 : 2020年 材質・形状 : 漆、鮑貝、夜光貝、金、木曾檜、螺鈿、蒔絵 寸法 : h19.3 w19.1 d19.3 解説 : 細かい数字の螺鈿は、映画『マトリックス』さながらの近未来的電脳世界のように荘厳ささえ感じさせる。本作は池田作品の中でも大型。確かな技術に裏打ちされた表現は、サブカルチャーと伝統技法の融合という工芸の新しい潮流を先導している。 取得額 (円) : - 展示予定 : 展示予定 (反復と偶然の工芸展 (仮称) ; 2024年12月17日~2025年2月24日)
13	種別 : その他の工芸 作者名 : 舘鼻則孝 (1985- ) 作品名 : Heel-less Shoes 制作年 : 2018年 材質・形状 : 牛革、染料、金属ファスナー 寸法 : 各h34.8 w9.3 d 21.5 解説 : 東京藝大で染織を専攻し、ファッションの観点で江戸時代の花魁を研究した舘鼻。本作は花魁の高下駄に着想し、西洋のブーツと融合させたもの。レディー・ガガらポップ・スターにも愛用者が多く、時代のアイコンとしても強烈なインパクトを放つ作品。 取得額 (円) : - 展示予定 : 計画中
14	種別 : その他の工芸 作者名 : 舘鼻則孝 (1985- ) 作品名 : Heel-less Shoes 制作年 : 2023年 材質・形状 : 牛革、染料、金属ファスナー 寸法 : 各h33.5 w9.8 d 19.0 解説 : 東京藝大で染織を専攻し、ファッションの観点で江戸時代の花魁を研究した舘鼻。本作は花魁の高下駄と西洋のブーツと融合させたもの。伝統文化を再解釈し新たな表現に昇華する手法は、過去と現在やファッションと工芸という境界を超えてゆく。 取得額 (円) : - 展示予定 : 計画中

15	種別 : 陶磁 作者名 : 深見陶冶 (1947- ) 作品名 : 孤 制作年 : 2018年 材質・形状 : 磁器 寸法 : h177.5 w48.0 d44.0 解説 : 「圧力鑄込み」の技法を独自に工夫し、身の丈を超えるスケールで展開する深見の作品は、日本刀を思わせる緊張感を湛えている。滑らかな曲線と研ぎ澄まされたエッジ、青磁独自の質感と手の痕跡の消去という相反する要素を併せ持つ優品。 取得額 (円) : - 展示予定 : 計画中
16	種別 : 漆工 作者名 : 奥出寿泉 (1916-1973) 作品名 : 乾漆廿四辺菊形食籠 制作年 : 1961年 材質・形状 : 漆、乾漆 寸法 : h10.0 D19.0 解説 : 師匠・松波保真ゆずりの引きへら技法を駆使して制作された本作は、合口、蓋裏、見付け、高台などすべてが菊形で構成されている。構想まで数年をかけ技術にも改良を重ねられた労作。初期作風を示すもので、塗りの変遷を窺ううえでも重要な作例。 取得額 (円) : 5,500,000円 展示予定 : 計画中
17	種別 : 漆工 作者名 : 二十代 堆朱楊成 (1880-1952) 作品名 : 彫漆香盆 甜瓜 制作年 : 1926年 材質・形状 : 漆、彫漆 寸法 : h3.5 D24.6 解説 : 1929年発行『堆朱作品図録』に収録され、作家生前よりよく知られた代表作のひとつ。黄と黒の漆のコントラストで甜瓜を生き生きと表現している。脂の乗りきった中期の作品で、特に優れた彫りの技術がみられる作例は極めて珍しい。 取得額 (円) : 5,929,000円 展示予定 : 計画中
18	種別 : 漆工 作者名 : 六角紫水 (1867-1950) 作品名 : 銀平文不動尊像軸盆 制作年 : 1943年 材質・形状 : 漆、蒔絵、平文 寸法 : h2.5 w15.8 d36.6 解説 : 東京美術学校教授や帝国芸術院会員を歴任し、作家としても歴史研究の面でも近代漆芸史に大きな足跡を残す紫水晩年の作。不動明王の繊細な表現と、地の部分の荒々しい凹凸の対比が印象的。制作年が明らかな晩年の作例は非常に貴重である。 取得額 (円) : 6,468,000円 展示予定 : 計画中
19	種別 : 工芸・デザイン資料 作者名 : 松田権六 (図案・絵付) (1896-1986) 作品名 : 色絵金彩鶴文飾皿 制作年 : 1970年代 材質・形状 : 磁器 寸法 : h7.0 D40.0 解説 : 蒔絵の人間国宝で漆芸分野初の文化勲章受章者である松田による磁器の器。本作は九谷焼の三代上出喜山の窯で制作され、図案と絵付を松田が手がけた。漆器以外に絵付けした珍しい作例で、本業での図案や絵付との比較をするうえでも貴重な資料。 取得額 (円) : 1,000,000円 展示予定 : 計画中

ほか7点/計26点 購入総額 : 280,982,000円